

今後の介護福祉士養成教育の課題

スピリチュアリティを考え問う科目の必要性

中澤秀一

(東京基督教大学准教授)

はじめに 195

- 1 「資格取得時の介護福祉士養成の目標」と
介護福祉士養成施設のあり方 196
- 2 全人的教育の課題 200
- 3 介護福祉士養成教育におけるスピリチュアリティの視点 201
- 4 スピリチュアリティを考え問う哲学・宗教的科目の重要性 205
 - (1) Three Ten—生き残るのは誰か?—『価値と汚名』
 - (2) Spirituality BAS Test
- 5 スピリチュアリティ教育の現状と今後 211

おわりに 212

はじめに

小論では、介護福祉士養成教育の現状と今後のあり方に関する研究の一部として、その教育目標である「資格取得時の介護福祉士養成の目標⁽¹⁾」の資質習得に関する新カリキュラム⁽²⁾における課題を検討する。

1988年4月に施行された「社会福祉士及び介護福祉士法」も20年が経過し、介護福祉士の量的な整備は進んでいる。しかし、法制定当時にはなかった介護保険制度や社会福祉法の施行、また認知症高齢者の増大から全人的ケア、個別ケア、個人の尊厳、権利擁護、心理面へのケア等、福祉を取り巻く環境は大きく変化してきた。こうした介護福祉士を取り巻く状況の変化をふまえ、現場を重視した実践的な人材の育成を目指して、2009年度より介護福祉士養成教育は新カリキュラム⁽³⁾へと移行したのである。ただし、教育目標である「資格取得時の介護福祉士養成の目標」の資質は前述の変化に対応する人材像を示しているが、その骨子となる全人的ケアとしての個別ケア、個人の尊厳、権利擁護の本質やその必要性に関しては教示されてはいないといえよう⁽⁴⁾⁽⁵⁾⁽⁶⁾。すなわち、人間は自分を「人間たらしめていく」ことを目指し、他者と交わり生きていく。その中で、他者との「ケアの関係」を展開するが、人間の本性は未完成なので、その実現に向けてのケアをどのように育てるかが問われることになるのである。それゆえ、この点に対する理念がなければ、そ

-
- (1) 厚生労働省「『社会福祉士及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直し案に関する御意見の募集』に対して寄せられた御意見について・別添2介護福祉士養成課程の見直しの基本的な枠組み」2008年、p.6に詳しい。
 - (2) 厚生労働省「社会福祉士及び介護福祉士施行令の一部を改正する政令等の関係政令及び社会福祉士及び介護福祉士法施行規則等の一部を改正する省令等の関係省令の制定について」『日社接発第0328078号』2008年。
 - (3) 厚生労働省「社会福祉士及び介護福祉士施行令の一部を改正する政令等の関係政令及び社会福祉士及び介護福祉士法施行規則等の一部を改正する省令等の関係省令の制定について」『日社接発第0328078号』2008年。
 - (4) カリキュラムの基準や想定される教育内容の例に関しては、厚生労働省 社会・援護局『社会福祉士及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて』、2008年に詳しい。
 - (5) 教育方法に関しては、介護福祉士養成教育に関する研究会『介護福祉士養成新カリキュラム・教育方法の手引き』日本介護福祉士養成施設教会、2008年を参照のこと。
 - (6) 厚生労働省「2年課程 新しい介護福祉士養成カリキュラムの基準と想定される教育内容の例」『社会福祉士及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて』2008年、p.1を参照のこと。

のときそのときの政治・経済・社会事情によって福祉実践は揺さぶられ、翻弄され、時に後退させられてしまうのである⁽⁷⁾。

このような課題に対して具体的に言及するのは、哲学を基盤にし、倫理(学)や宗教(学)を踏まえ、諸科学などの成果をも採用して、現実生きる人間と、その生き方を総合的に考え問う学問である⁽⁸⁾。したがって、全人的ケアを行うには自己存在の枠組みや自己同一性であるスピリチュアルな次元の教育を検討することが必要なのである。

介護福祉士養成教育におけるスピリチュアリティに関する数少ない研究の一つに唐津⁽⁹⁾があるが、これはターミナルケアや死生観に対するデスエデュケーションの必要性を論じており、小論で検討する全人的ケアとしてのスピリチュアル・ケアに関する研究とは異なっている。また、ヒューマンサービス職に関するスピリチュアリティ研究は看護分野にも見られるが、これらも末期医療に関するものである。

これら、先行研究を踏まえた本研究の特質は、介護福祉士養成教育におけるカリキュラム内容に焦点化し、スピリチュアリティを考え問う科目の必要性を検討したことである。そのため、神学的伝統のあるA大学学生、B短期大学生、C専門学校生、福祉社会人に対して「Three Ten—生き残るのは誰か?—『価値と汚名』」⁽¹⁰⁾及びスピリチュアリティ測定のため「SBAS Test⁽¹¹⁾」を施行しその傾向を比較検討した。

1 「資格取得時の介護福祉士養成の目標」と介護福祉士養成施設のあり方

2006年、厚生労働省における介護福祉士のあり方及びその養成プロセスに関する検討会で取りまとめられた報告内容には、これからの「求められる介護サービ

(7) 江藤直純「キリスト教の人間観と福祉教育」『キリスト教社会福祉学研究 38号』日本キリスト教社会福祉学会、2004年、pp.14-15。

(8) 釜谷明生「『ケア』の倫理的考察—井上英治のケア思想を中心に」『キリスト教社会福祉学研究 38号』日本キリスト教社会福祉学会、2004年、pp.52-53。

(9) 唐津浩「福祉教育における『死』の概念—本学学生へのアンケート調査より」『介護福祉教育 第11巻第2号(通巻大21号)』日本介護福祉教育学会、2006年、pp.48-55。

(10) 得津慎子『ソーシャルワーク援助技術論・理論と演習』西日本法規出版、1999年

(11) 尾崎真奈美・石川勇一・松本孚「相模女子大生のスピリチュアリティ—特長と『スピリチュアル教育』マニュアル作成の試み」『相模女子大学紀要 68巻』相模女子大学、2004年、pp.43-46。

ス⁽¹²⁾として以下の4点を示している。それは、第一に、障害の有無や年齢にかかわらず個人が尊厳をもった暮らしの確保及び利用者の個性や生活のリズムを尊重した介護の実践。第二に、認知症の増加をはじめ発達障害のある者への対応など、心理、社会的なケアのニーズも踏まえた全人的なアプローチ。第三に、介護予防から看取りまでの幅広い介護ニーズに対応するため、医学や看護、リハビリテーションや心理などの他領域の基本的な理解や、利用者や家族、チームに対してわかりやすい説明や円滑なコミュニケーションができる能力。第四に、情報の共有の観点から、適切に記録・記述できることや、適切に記録を管理することである。これは、介護福祉士制度が1988年の創設以来、約20年が経過し、寝たきりでない認知症高齢者の増加や医療依存度の高い障害者及び精神障害者への介護など、その間の福祉・介護をめぐる状況の変化により、介護ニーズに対応できる人材養成を求められてのことであるといえよう。

このような状況を踏まえ、厚生労働省は表1のように介護福祉士のあるべき姿として「求められる介護福祉士像⁽¹³⁾」を示している。

表1 求められる介護福祉士像

- ①尊厳を支えるケアの実践。②現場で必要とされる実践的能力。③自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる。④施設・地域（在宅）を通じた汎用性ある能力。⑤心理的・社会的支援の重視⑥予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる。⑦他職種協同によるチームケア。⑧1人でも基本的な対応が出来る。⑨「個別ケア」の実践。⑩利用者・家族・チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力。⑪関連領域の基本的な理解。⑫高い倫理性の保持。

(厚生労働省『介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直しに関する検討会報告書』2006年より筆者作成)

(12) 厚生労働省「介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直しに関する検討会報告書・資料1」2006年、p.5。

(13) 厚生労働省『介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直しに関する検討会報告書』2006年。

これは、2000年の介護保険制度の施行とその後の見直し、さらに2006年の障害者自立支援法の施行の中で、高齢者や障害者に対する新しいケアに対応できるような資質の確保及び向上を求めているものといえる。しかし、ここに示されている資質はあらかじめ理論的・体系的に必要な知識及び技能を修得した上で、介護等の業務に関する実務経験や継続教育を積み重ねた結果の最終的な目標といえるのである。そのためには、基礎的な資質を表し、介護福祉士資格の取得ルートである養成施設ルート、実務経験ルート、福祉系高校ルートにおける教育プロセスの水準を一定のレベルに統一することが重要となる⁽¹⁴⁾。これらのことから、厚生労働省は「求められる介護福祉士像」の基礎的資質である「資格取得時の介護福祉士養成の目標」を表2のように示したのである。

表2 資格取得時の介護福祉士養成の目標

- ①他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。
- ②あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。
- ③介護実践の根拠を理解する。
- ④介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。
- ⑤利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。
- ⑥介護に関する社会保障制度、施策についての基本的理解ができる。
- ⑦他の職種の役割を理解し、チームに参画する意義を理解できる。
- ⑧利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。
- ⑨円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。
- ⑩的確な記録・記述の方法を身につける。
- ⑪人権擁護の視点、職業倫理を身につける。

(厚生労働省『社会福祉士及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直し案に関する御意見の募集』に対して寄せられた御意見について・別添2介護福祉士養成課程の見直しの基本的な枠組み」2008年より筆者作成)

すなわち、表1及び表2に示された資質・能力が今後の介護福祉士に求められる

(14) 厚生労働省『介護福祉士制度及び社会福祉士制度の在り方に関する意見』2006年、pp.7-9に詳しい。

専門性のあるべき姿と基礎的資質であるといえよう。そこで、まず養成施設ルートでは、2009年4月よりカリキュラム改正が行われた。また、骨子となる基本的な考え方を、①今日的視点で抜本的に見直す。②介護福祉士の国家試験に求める水準は、介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力とする。③介護のためという視点のもと、理論と実践の融合を目指すという3点に示している⁽¹⁵⁾。さらに、教育内容の充実として、総時間数が現行の1650時間から1800時間程度への移行、表3のように「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「介護」の領域及び教育内容が示されたのである。

表3 現行カリキュラムと新カリキュラムの比較

	科目	時間数	領域	教育内容	時間
基礎科目	人間とその生活の理解 (内容自由)	120	人間と社会	人間の尊厳と自立	30
				人間関係とコミュニケーション	30
				生活と福祉	15
		社会保障制度総論		15	
		介護保険制度と障害者自立支援制度		15	
		介護実践に関連する諸制度		15	
	小計	120		選択科目	120
専門科目	介護概論(講義)	60	介護	介護概論	180
	医学一般(講義)	90		コミュニケーション技術	60
	精神保健(講義)	30		生活援助技術	300
	社会福祉概論(講義)	60		介護過程	150
	老人福祉論(講義)	60		介護実習	450
	障害者福祉論(講義)	30		介護総合演習	120
	リハビリテーション論(講義)	30	小計	1260	
	社会福祉援助技術(講義)	30	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	60
	社会福祉援助技術演習(演習)	30		認知症の理解	60
	レクリエーション活動援助法(演習)	60		障害の理解	60
	老人・障害者の心理(講義)	60		こころとからだのしくみ	120
	家政学概論(講義)	60		小計	300
	家政学実習(演習)	90	合計	1800	
	介護技術(演習)	150			
	形態別介護技術(演習)	150			
	介護実習指導(演習)	90			
	小計	1080			
介護実習(実習)	450				
合計	1650				

(筆者作成、中澤・2010年⁽¹⁶⁾)

すなわち、新カリキュラムでは、総時間数が増加し、科目名も実践的なものへ変化したといえる。さらに、教育内容も旧カリキュラムでは大まかに示されていたものが、「科目のねらい」「教育に含む事項」「想定される教育内容の例」など、細部まで十分に詰められている。ただし、根本的な課題となるのは具体的な教育内容・

(15) 前掲書12) 2006年, p.5。

(16) 厚生労働省「社会保障審議会福祉部会意見書について?」2006年, p.13 作業チームの「中間まとめ」における新カリキュラム案をもとに、筆者が改変し作成した。

方法が各介護福祉士養成施設の判断に委ねられていることである。そのため、新カリキュラムの骨子である、全人的ケアとしての個別ケア、個人の尊厳、権利擁護などの人間の本质を理解させケアする能力の習得は、各介護福祉士養成施設の教育内容に大きく左右されるのである。

2 全人的教育の課題

それでは、全人的ケアとしての個別ケア、個人の尊厳、権利擁護の本質やそれを習得するための教育方法についてみてみたい。厚生労働省はカリキュラムの基準として、教育内容に「人間の尊厳と自立」を設けている。このねらいは、「人間の理解を基礎として、人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする」ことであり、教育に含むべき事項に「人間の尊厳と自立」と「人権と尊厳」を挙げている。ただし、これは「想定される教育内容の例」であるため、それをどのように教育するかは各介護福祉士養成施設の裁量に委ねられている⁽¹⁷⁾。これについては、「介護福祉士養成カリキュラムの手引き」があるが、その内容を見ると「人間の多面的理解や尊厳の内容、自立・自律の意味を具体化させ、学生に理解させる」としながらも、その具体的内容は示されていないのである⁽¹⁸⁾。

この点に関して日本介護福祉士会は、生活の主体者である「人間とは何か」を認識し思索することが不可欠であり、特に「人間の尊厳と自立」「生活と福祉」について重視すべきであることを指摘している。また、その裏づけとして、そもそも「尊厳」とは何を意味するのか、また倫理について単に職業倫理に限らず、倫理と倫理公準についての一般的理解が欠かせないとしている。また、人間の尊厳や倫理に対して学んだり、実践できるように倫理観、感受性の育成が必須条件であるとして、憲法の理念や生活の意味・意義の理解、憲法の理念を具体化するための社会保障の歴史や変遷・仕組みの理解を中心に示えることを教育の一例にあげている⁽¹⁹⁾。ただ

(17) 厚生労働省「2年課程 新しい介護福祉士養成カリキュラムの基準と想定される教育内容の例」『社会福祉士及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて』2008年、p.1を参照のこと。

(18) 介護福祉士養成教育に関する研究会『介護福祉士要請カリキュラム・教育方法の手引き』日本介護福祉士養成施設協会、2008年、p.4に詳しい。

(19) 詳細は、日本介護福祉士会『介護福祉士の教育のあり方に関する検討会報告書—養成カリキュ

し、憲法を根拠にすることは一見正しいようであるが、実は不十分であると認識しなければならないといえる。確かに、憲法は人間の本質的価値を国家の最高法規として宣言し、達成すべき目標と、最低の生活水準を理念の形で法的権威を持って提示されている。しかし、憲法にそのような規定が示されていなければ人間の本質的価値がなかったのかといえそうではないのである。すなわち、人間そのものには少しも変わりはなく、その人間の価値と尊厳には何の代わりもないのである。換言すれば、「なぜ人間には犯すことのできない尊厳があるのか」「なぜ人権は何にもまさって尊ばれなければならないのか」「そもそもいのちとは何なのか」ということを改めて問い直さなければならないのである。この問いに対してしっかりとした答えを持たなければ、そのときそのときの政治・経済・社会事情によって福祉実践は揺さぶられ、翻弄され、時に後退させられることさえもありうるのである⁽²⁰⁾。

3 介護福祉士養成教育におけるスピリチュアリティの視点

それでは、「人間とは何か」について考察したい。釜谷は、人間は自分を「人間たらしめていく」ことを目指すという「人間本性的傾向」のうちに生きる存在としている。なかでも、その重要なひとつが他者と交わって生きようとする「社会的本性」なのである。すなわち、人間はこのような「人間になることを目指す」という本性的傾向により、他者との間にケアシケアされる「ケア関係」を展開していくのである。しかし、人間本性は根源的に未完成な存在であるから、この人間本性の実現に向けて、どのようにケアを育てていくのが問われることになる。また、人間は「どのようなものであるか（遺伝子・本能）」だけでなく、「どのようなものであるべきか（倫理・本性）」が問われている存在でもある。したがって、人間本性におけるケア、すなわち介護は、まさにこうした人間存在の中で、それをいかに育てていくかということが大きな課題といえるのである。

他方、利用者中心の全人的介ケアといわれるなか、介護現場においては、日々の作業に追われて、自分が携わっている介護本来の持つ意味が見えなくなることがある。しかし、介護が人間を相手にしている行為である限り、「人間とは何か」が分からないままでは、介護が「介助」や「世話」などの単なる手助けに陥ることにな

ラムに関する中間まとめ』2007年、Ⅱ介護福祉士養成課程において習得すべき内容を参照のこと。

(20) 前掲論文8) pp.14-15。

りかねない。そのため、介護現場においても人間の本性を考えることは重要な課題である。

このような課題に対して、具体的に言及するのが哲学を基盤にし、倫理（学）や宗教（学）をふまえ、諸科学などの成果をも採用して、現実生きる人間と、その生き方を総合的に考え問う学問⁽²¹⁾、すなわち、スピリチュアリティに関する学問である。これまで、医療分野で使われているスピリチュアリティは、主に末期医療に限定される傾向があり、健康増進・健康教育的な分野での提唱は稀であったが、それに関連し、苦悩を通じて人生の意味や目的などを獲得していく、自然・他者・自己とのつながりも含めた拡張した概念として捉えられる場合が多くなっている⁽²²⁾。これは、国際生活機能分類（ICF：International Classification of Functioning, Disability and Health）・活動と参加（activities and participation）の下位概念に宗教とスピリチュアリティ（religion and spirituality）が示されていることから明らかである⁽²³⁾。ただし、日本においてはスピリチュアリティという言葉に定まった定義は見られず、多くの研究者がそれぞれの立場からの見解や定義を述べている（表4）。

(21) 前傾論文9) pp.52-53。

(22) 尾崎真奈美, 深尾篤嗣, 奥建夫 『『苦悩』のスピリチュアリティから『喜び』のスピリチュアルヘルスへ』『心身医』Vol.48 No.6, 2008年, p.514。

(23) 厚生労働省 『『国際生活機能分類－国際障害分類改訂版』（日本語版）の厚生労働省ホームページ掲載について』2002年を参照のこと。

表4

領域	研究者名	定義・見解
欧米・看護学	Harrison	スピリチュアリティは宗教と同義ではなく、人生の意味や目的についての哲学的な概念を包含する。
	Tanyi	「人生の意味の探求」であり、誕生、死、病気などの人生の転機となる出来事に出会った際に覚醒する。それは、人間に本来的に備わっているものであり、人間存在の核となるもの。
	Reed	自己を超える偉大なものとのかかわりであり、ものの方や行動に影響を与える領域。
	Hay	「自己」「他者」「神」の3つの要素の中心をなすもの。スピリチュアルに良好な状態は個人の内的資源を強める。
	Hungelmannら	スピリチュアルに良好な状態は、自己、他者/自然、時と場所を越えて存在する究極の他者と内的に関連した調和の感覚である。人生の究極の目的と意味の実感に導かれる動的で統合的な成長のプロセスを通じ到達する。
宗教学・人文社会学	窪寺俊之(神学)	人生の危機に直面して『人間らしく』『自分らしく』生きるための『存在の枠組み』『自己同一性』が失われたときに、それらのものを自分の外の超越的なものに求めたり、あるいは自分の内面の究極的なものに求めたり、あるいは自分の内面の究極的なものに求める機能。
	村田久行(哲学・社会福祉学)	スピリチュアルペインとは、自己の存在と意味の消滅から生じる苦痛であり、時間存在、関係存在、自律存在である患者が死の接近により「将来、他者との関係、自律性」を失うことから生じる。
	中村雅彦(トランスパーソナル心理学)	人々の日常生活における体験、信念、態度、および価値観の反映された多くの心理的変数であり、それは人々にとって必ずしも自覚され、意識されているものとは限らない「潜在因子」である。
	藤井美和(社会福祉学)	「人間は、病気の有無に関わらず、存在意義や生きる意味を探しながら生きている」という人間存在の根源性に関わる概念。
医療系	山崎章部(緩和ケア)	人間存在を構成している重要な要素であるが、普段は潜在化しているもの。
	河正子(緩和ケア)	個人の生きる根源的エネルギーとなるものであり、存在の意味に関わる。したがって、そのありようは、個人の全体的機能、すなわち、個人の身体的、心理的、社会的領域の基盤として各側面の表現系に影響を及ぼす。
	比嘉勇人(看護学)	何かを求めそれに関係しようとする積極的な心の持ちようや自分自身やある事柄に対する感じまたは思い(意気・概念)
高齢者の特徴	青木信雄(高齢者医療)	「人の世界観を導き、日常の営みに枠組みを与えるもの」「存在の意味を捜し求めることでもあり、生きるための原動力となるもの」
	小楠範子(高齢者看護)	人間に本来備わっており、人生の節目となる出来事において覚醒するもの「自己」「他者」「自分の力を超える大きなもの」との関係性を有し、これらの関係性を基盤とし、「生きる意味・目的」「死や苦しみの意味」について探求する特質を持つ。
	岡本宣雄(高齢者福祉)	人が生活上の課題に直面した時に、その困難な中においても生が肯定され、安らぎや希望が与えられるために、自己を超越したものへ結びつけ、また、存在の意味や生きる目的を見出させる活力である。「死の意識」「悔い」「宗教」などのスピリチュアルな課題は、高齢者の生活課題を構成する重要な要素である。
	中村雅彦(トランスパーソナル心理学)	若年層においては、生きることやいのちの側面が重要な課題である。60歳以上では、生きることやいのちの側面に加えて、人間を越えたもの、超越的な意識の次元に関心が向かうようになる。
日本人の特徴	田崎美弥子ら(WHO QOL)	個人差が大きいものの、共通項として、①自然との対比における人の小ささ、②自然への畏敬の念、③祖先との関わり、④個人の内的強さ、⑤特定の宗教をもたないにしても、何か絶対的な力の存在を感じる点、などがある。
	藤井美和ら(WHO QOL)	「個人的人間関係」「生きていく上での規範」「超越性」の3つの構成概念。「親切、利己的でないこと」「受容」「信仰」「内的な強さ」「心の平安、安寧、和」「死と死にゆくこと」「人生の意味」「絶対的存在と連帯感」「無償の愛」の9領域の上位概念に妥当性あり。(WHO QOL SRPB予備調査結果)
	窪寺俊之(神学)	自然・風習・文化などの影響を強く受けていて、信じる対象や内容は明確ではないが、人生を支え、慰め、方向性を与えるものである。

(筆者作成・中澤2010年)⁽²⁴⁾

(24) 小藪智子・竹田恵子・大場好子「スピリチュアリティの認知の有無と言葉のイメージ」『川崎医療福祉学会誌 Vol.19 No.1』川崎医療福祉学会, 2009年, p.61。を筆者が改変し作成した。

スピリチュアリティの語源は、生命力の根源、生气、心、精神、魂などの意味であるといわれ、表4における見解・定義は同様のことを示している。これらは、自己存在の枠組みや自己同一性といえ、このスピリチュアリティの高さ、スピリチュアリティニードが満たされるほど、精神的、肉体的、健康生成、QOL（Quality of Life 生活の質）の高さに寄与するといわれているのである^{(25) (26)}。

このような、自己同一性としてのスピリチュアリティの要因を、窪寺は表5のように、①感情的・情緒的要因、②哲学的要因、③宗教的要因、④重層的要因に分類している。

表5 スピリチュアリティ（自己同一性）の要因

感情的・情緒的要因	不安、恐怖、いらだち、孤独感、虚無感など。
哲学的要因	回答が必ずしも存在しないような「なぜ、私がこんな病気になるって苦しまなければならないのか」という哲学的問い。
宗教的要因	理性や合理性のような論理性を超えた信仰、信念、イメージの世界に属するような「こんなに苦しむのは罰が当たったのかかもしれない」「死んだ後には地獄があるのか」という宗教的問い。
重層的要因	その人が生きてきた文化、習慣、風習、自然などが影響を与える。また、人間関係、思想、哲学、主義、宗教などの影響も大きい。

(筆者作成、中澤・2010年⁽²⁷⁾)

上記の要因に対して、また、喪失した苦しみや問いに対するの回答を見いだせないとき、人はスピリチュアルペインを持つのである。さらに、このスピリチュアルペインに関するニーズは表6のように哲学的ニーズと宗教的ニーズに分かれるのである。

(25) 尾崎真奈美「人間成熟は必ずしも精神的健康を約束しない？スピリチュアル・ヘルスとメンタルヘルスの相違」『Journal of International Society of Life Information Science』国際生命情報科学会、2007年、p.119に詳しい。

(26) 藤井美和「病む人のクオリティオブライフとスピリチュアリティ」『関西学院大学社会学部紀要 85』関西学院大学、2000年、pp.33-42。

(27) 窪寺俊之『スピリチュアルケア学序説』三輪書店、2004年、p.11を筆者が改変し作成した。

表6 スピリチュアルニーズ

哲学的ニーズ	人生の意義や意味/人生の目標/起源や運命/自他の尊厳・尊重・尊敬/コミュニケーション/真理, 真実/自己反省, 赦し/独りでいること, 独りで考えること/働く意味/価値観の選択と追求/誠の自分らしさ/感謝の心をもつこと
宗教的ニーズ	超自然の存在や神/神性の象徴や兆候/信じること/祈ること/賛美すること/罪からの開放と癒し/神に謝り, 赦してもらうこと/永遠の生命

(筆者作成・中澤 2010 年)

ただし、日本文化においてスピリチュアルニーズは元気であつたり忙しい毎日では特に表には現れにくい⁽²⁸⁾が、病んでいるときに多く現れてくるニーズといえる。すなわち、人間はスピリチュアリティな事柄を盲目的な運命としては受け入れにくい存在といえるのである。そのため、スピリチュアリティな事柄に対する無知は耐え忍びがたく、なんとか、それらの要素の意味や目的を知ろうとする。したがって、わけがわからずに人生、特に困難、病氣、死を受け入れて生きることは難しいといえるのである⁽²⁸⁾。すなわち、スピリチュアリティの本質とは人生の意味や死の恐怖、神の存在の探究など人間存在の根底にかかわる人間自身の内面性であり、すべての人間が共通に持つ生命の根源といえるのである⁽²⁹⁾。したがって、スピリチュアルニーズは末期医療患者に限定される狭義のニーズではなく人間誰もが多かれ少なかれ持っているニーズなのである。これらのことから、「全人的ケア」を行うためには1998年のWHO執行理事会で示唆されたように、人間の尊厳の確保やクオリティQOLを考えるために必要な、本質的なものとしてのスピリチュアリティな次元を視野に入れなければならないのである。

4 スピリチュアリティを考え問う哲学・宗教的科目の重要性

それでは、スピリチュアリティを考え問う科目の必要性を検討するため、筆者が行った調査(期間:2010年4月~7月。調査対象者:A大学生:59名, B短期大学生:61名, C専門学校生:36名, 福祉社会人:20名 n=176名)についてみてみた

(28) ウォルデルマール・キッペス『スピリチュアルケア・病む人とその家族・友人および医療スタッフのための心のケア』サンパウロ出版, 1999年, p.68-76。

(29) 高橋正美, 井出訓「スピリチュアリティの意味-若・中・高齢者の三世代比較による霊性・精神性についての分析」『老年社会学第26巻第3号』日本老年社会学会, 2004年, pp.296-307。

い。方法は、4会場において無記名の自記式調査として施行した。倫理的配慮として、すべての調査対象者に研究目的・方法を説明し個人が特定されないことを説明した。また、学生には協力拒否による不利益や評価に影響を与えないことを説明し、調査用紙の提出を持って同意を得たものとした。調査内容は、基本属性・信仰（①年齢、②性別、③職種、④宗教・哲学に関連する授業の受講の有無⑤特定の信仰の有無⑥特定の信仰）及び、全人的ケアとしての個別ケア、個人の尊厳、権利擁護の本質について、各人の捉え方を測定した。そのために「Three Ten—生き残るのは誰か?—『価値と汚名』』及びスピリチュアリティ測定のため「Spirituality BAS Test」を施行しその傾向を比較検討した。

(1) Three Ten—生き残るのは誰か?—『価値と汚名』

奇怪な一連の事件が続いて、世界中が強力な原子力のえじきとなり、この地球上の人類に終局をもたらせようとしています。しかし、科学者は特別なカプセルを作り、小さいながら、その中にいる人たちは完全に生存できることを保障しています。この室内には、すでに選ばれた10人の人たちが入るようになっていました。それは以下の10人です。

1. 目下売り出し中の歌手の卵	♀	19歳
2. OL	♀	24歳
3. 医者	♀	27歳 妊娠6ヶ月
4. プロサッカーの選手	♂	30歳 麻薬所持で逮捕歴あり
5. 武装した警官	♂	35歳 何度も警視総監賞受賞
6. 医者	♂	32歳
7. 7ヶ国語に堪能な同時通訳	♀	36歳 子どもは産めない
8. 生化学者	♂	60歳 ノーベル賞受賞
9. 有名な小説家	♂	59歳 精神障害で入院歴あり
10. 牧師	♂	70歳

ところが、最後の瞬間になって科学者は、最初の計画に反してカプセルの中では7名しか安全を保障できないとアナウンスしてきました。上記のリスト中どの人が除かれるべきでしょうか。人類の生存者は7名のみというわけです。生き残れない3名をあなたが決めてください。

1. ()

理由「 _____ 」

2. ()

理由「 _____ 」

3. ()

理由「 _____ 」

※生き残れない3名を決めることができなかったという方はその理由を記入してください。

図1 得津慎子『ソーシャルワーク援助技術論・理論と演習』
(西日本法規出版、1999年)を改変

この結果は表7に示したとおり調査対象者の持っている価値観を表している。例えば、「プロサッカー選手」や「有名な小説家」が多く選ばれているのは、この彼らに精神障害の入院歴や過去の麻薬歴があり、それらを繰り返す可能性があると考えたためであろう。また、子供が産めない、高齢であるから必要ないという意見も多くを占めている。

反対に生き残れない3名を決めることができない者は34名であった。その理由として、「みんな将来がある」「だれでもそれなりの役割を持っている」「命は大切」「みんな対等」「みんな人間だから」「自分には選ぶ権利がない」「全員助からないのなら全員地球にとどまるという選択肢もある」「平等に権利を得られるべき」「人の命の優劣を決めることは同じ人間として難しい」「私は神様でないので、人を生かす、生かさなはいは決められない」「人の価値を決められない」「特徴なんて気にしない」「人間の生死を人間が決めるべきではない」「特に、生きてこれなくていいという人が見つからなかった」等があげられ、そのような人間の価値と尊厳には何の優劣もないという価値観の表れであろう。

表7 ThreeTen—生き残るのは誰か?—『価値と汚名』の集計結果

選択項目		全体	%	A大学生	%	B短期大学生	%	C専門学校生	%	福祉社会人	%
受講に関して	どちらも受講	35	19.9	33	55.9	0	0.0	1	2.8	1	5.0
	宗教関連のみ	25	14.2	22	37.3	0	0.0	1	2.8	2	10.0
	哲学関連のみ	4	2.3	2	3.4	0	0.0	0	0.0	2	10.0
	受講していない	107	60.8	2	3.4	0	0.0	33	91.7	17	75.0
	その他	1	0.5	0	0.0	0	0.0	1	2.8	0	0.0
信仰の有無	ある	70	39.8	59	100.0	7	11.5	4	11.1	0	0.0
	ない	82	46.5	0	0.0	34	55.7	28	77.8	20	100.0
特定の宗教	キリスト教	61	34.7	59	100.0	2	3.3	0	0.0	0	0.0
	仏教	8	4.5	0	0.0	5	8.2	3	8.3	0	0.0
	その他	1	0.6	0	0.0	0	0.0	1	2.8	0	0.0
選択項目	歌手の卵	16	9.1	6	10.2	7	11.5	1	2.8	2	10.0
	OL	19	10.8	5	8.5	3	4.9	9	25.0	2	10.0
	医者の卵	7	4.0	2	3.4	1	1.6	3	8.3	1	5.0
	プロサッカー選手	109	61.9	28	47.5	41	67.2	25	69.4	15	75.0
	武装した警官	27	15.3	12	20.3	4	6.6	10	27.8	1	5.0
	医者	2	1.1	2	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	同時通訳	39	22.2	14	23.7	17	27.9	5	13.9	3	15.0
	生化学者	27	15.3	11	18.6	5	8.2	4	11.1	7	35.0
	有名な小説家	85	48.3	26	44.1	29	47.5	17	47.2	13	65.0
	牧師	75	42.6	11	18.6	36	59.0	21	58.3	7	35.0
	決めることができない	34	19.3	18	30.5	10	16.4	3	8.3	3	15.0

(筆者作成、中澤・2010年)

そして、このような価値観と①宗教及び哲学に関連する授業を受けたことの有無。②特定の信仰の有無。③特定の信仰との相関関係についてSPSS解析ソフトを用いてピアソン係数によって求めた。その結果を表8に示す。

表8 宗教・哲学の授業、信仰の有無、特定の信仰の相関関係

		歌手 の卵	O L	医者 の卵	プロサ ッカー の選手	武装 した 警官	同時 医者	生化 通訳	有名 な小 説家	教師	決めるこ とができ ない	
宗教哲学の勉強	Pearson の相関係数	-.031	.000	-.055	-.175	-.112	.(a)	-.073	-.064	-.171	-.122	.437(**)
	有意確率 (両側)	.859	1.000	.752	.308	.514	.	.673	.711	.318	.477	.008
	N	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
信仰の有無	Pearson の相関係数	.(a)	.218	-.098	.051	.257	.(a)	-.143	-.143	.000	.098	-.122
	有意確率 (両側)	.000	.230	.595	.782	.155	.	.435	.435	1.000	.595	.507
	N	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
特定の宗教	Pearson の相関係数	.(a)	.577	.(a)	-.333	.577	.(a)	.(a)	.(a)	-.577	-.333	.(a)
	有意確率 (両側)	.000	.423	.000	.667	.423	.	.000	.000	.423	.667	.000
	N	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

**相関係数は1%水準で有意(両側)です。 *相関係数は5%水準で有意(両側)です。

a 少なくとも1つの変数が定数であるため、一定の変数は計算されません。 (筆者作成・中澤 2010 年)

ここからわかるように、生き残れない3名を選択したことと、「宗教・哲学の勉強」「信仰の有無」「特定の宗教を信仰していること」には相関関係が認められなかった。また、「信仰の有無」や特定の「宗教を信仰していること」と「生き残れない3名を決めることができない」にも相関関係はみられなかった。これに対して、「宗教・哲学の勉強を行った者」と「生き残れない3名を決めることができない」には正の相関関係が認められた。このことから、宗教・哲学に関連する科目を学習した学生は全人的ケアとしての個別ケア、個人の尊厳、権利擁護の本質に関して理解できる傾向があるといえるのである。

(2) Spirituality BAS Test

このテスト(図2)は、スピリチュアリティを測るためのものとして、尾崎らが開発したものである。スピリチュアリティといっても様々であるが、ここでは、① SBT (自分や外界の状況を冷静に判断し、自分や周りの最善となるように行動をコントロールし、遂行する意思のはたらき)、② SAT (外界の条件にかかわらず、自分の存在そのものに対して満足し、自信を持って生きる態度)、③ SST (スピリチュアリティなものに対する感性の高さ)、④ SBF (自分自身のコントロールができるかどうか)、⑤ SAF (現実生活の厳しさやつらさをあまり直面せず、見ないようにして自分を保つ傾向)、⑥ SSF (自他が未分化のように感じたり、感覚的なものに心を奪われやすかったり、非科学的なものを信じたりする傾向)に分けて得点が算出されている。

以下の項目を読んで、自分に当てはまると思うものには5、まあまあ当てはまるものには4、どちらでもないには3、あまりあてはまらないには2、まったく当てはまらないと思うものには1の5段階で評価してください。そして、解答欄にその数字を記入してください。

ただし、⑨⑩⑫⑬⑭は逆転項目ですので、当てはまると思うものには1、まあまあ当てはまるものには2、どちらでもないには3、あまりあてはまらないには4、まったく当てはまらないと思うものには5と評価してください。

1. 大勢の人が間違ったと思われる行動をしているときに、自分ひとりでも自分の正しいと思うことを実行する。	
2. 不安や恐れがあるときでも、決めなければならないときには勇気を持って決断する。	
3. 正しいと決断したことに対しては、何回失敗しても信念を持ってやり続ける。	
4. 集団的に恐れやパニック状態でもその影響から身を守り、本当になされることが何かを静かに明確に判断する。	
5. やろうと決めたことを実行中に、他のことや人からの勧誘に抵抗してやり続けることができる。	
6. 時間の観念のない人たちのおしやべりに、丁寧にしかも断固として断ることができる。	
7. 退屈つまらない仕事でも、必要なことは淡々と実行する。	
8. 目的や価値があるときには、あえて危険や冒険をおかすことはいとわない。	
⑨. 疲れを感じても、仕事や勉強の手を休めない。(逆転項目)	
⑩. 自分がなぜ生きているのか時々わからなくなる。(逆転項目)	
11. 生まれてこの方、いつも喜びに満ち溢れている。	
⑫. ストレスが多くゆったりとした気持ちになれない。(逆転項目)	
13. 攻撃的、不安、うつ、落胆等ネガティブな感情が起きたても断ち切って有益な方向にエネルギーを集中させる。	
⑬. 理由のわからないむなしさにおそわれることがある。(逆転項目)	
⑭. 自分自身に自信が持てない。(逆転項目)	
16. 目ざめたときに、今日一日がどんな日になるか期待でわくわくしている。	
17. 欠点もあるが自分のことが好きである。	
18. もしできるなら、今のこの人生を何度でも繰り返したい。	
19. 自然や宇宙の偉大さの前に、謙虚な気持ちになる。	
20. 何かに祈ることがある。または、祈りたい気持ちになる。	
21. 何か、意味があって生かされているはずだと感じる。	
22. 生命のすばらしさ、神秘性に、畏敬の念を感じる。	
23. 悪いことをすると、天の罰があたる。	
24. 人間の勝手な振る舞いに対して、自然が怒って反撃していると思う。	
25. 一人静まったときなどに、内なる声というか、意思のようなものを感じることもある。	
26. この世界には人間の力をはるかに超えた大いなるものの力が働いていると思う。	
27. 自分が生まれる前も死んだ後も続いていく永遠の流れを感じる。	
28. 躍り出たくなるような気分になることがある。	
29. 言葉に出したことが実現してしまうのは本当だと思う。	
30. 結婚式はやはり、大安か友引の日にすべきである。	

図2 尾崎真奈美・石川勇一・松本孚「相模女子大生のスピリチュアリティ特徴と『スピリチュアル教育』マニュアル作成の試み」相模女子大学、2004年を改変。

この結果を、①A大学生、②B短期大学生、③C専門学校生、④福祉社会人ごとに分類し、平均得点を表したのが表9である。

表9 Spirituality BAS Testの平均値

	全体	A大学生	B短期大学生	C専門学校生	福祉社会人
SBT	29.64	30.93	29.02	28.97	28.9
SAT	25.47	27.59	22.16	25.67	28.9
SST	39.15	43.36	37.61	35.06	38.8
SBF	2.97	3.08	3.2	2.69	2.45
SAF	2.59	2.59	2.36	2.83	2.85
SSF	12.03	10.22	12.89	12.61	13.75

(筆者作成、中澤・2010年)

神学系大学であるA大学生は、キリスト教の信仰及び宗教、哲学に関連する科目を受講しているが、この比較からわかることは、A大学生は特にSBT、SST得点が高いことである。SBTの基準は、何か絶対的な価値にしたがひ、勇気を持って選択するところである。したがって、A大学生は自分や外界の状況を冷静に判断し、自分や周りの最善となるよう行動をコントロールし、遂行する意思のはたらきが強いかを表している。また、SSTが高いということはスピリチュアルなものに対する感性の高さ、何か目に見えないものに対する感性や気づきが鋭いことを表している⁽³⁰⁾。さらに、SAT得点は他の学生に対して高いことがわかる。この得点が高いということは穏やかで明るい、情緒の安定した積極的な態度を持つ学生が多いことを表している。SBF得点が高いことは無理をして頑張る態度、低いことは無責任な傾向を表している。ただし、きついことをがんばってやるのが意思が強いと評価されがちだが、スピリチュアリティの立場では、それは必ずしも正しいとはいえないのである。つまり、頑張りすぎずいい加減でもないバランスの取れた学生が多いことを表しているといえよう。SAF得点に関しては、得点が高くなると楽観主義になる可能性がある。この得点も平均的であり、楽観的でも悲観的でもない現実をしっかりと認識した生活をしている学生が多いことを表している。さらには、SSF得点が低いのもA大学生の特徴である。SSF得点の高さは、感性の高さを表

(30) 前掲論文11)を参照のこと。

しているが、時に危険なスピリチュアリティを伴うことがある。したがって、A大生の特徴の低さは現実を大切に、客観的、合理的、論理的に考える習慣を持つことを示しているといえよう。

5 スピリチュアリティ教育の現状と今後

表10は、D地方の介護福祉士養成施設のホームページをランダムサンプリングし、選択科目の内容を示した結果である。

表10 D地方養成施設の教養・選択科目

1	専	2	法学	生化学	経済学	情報処理	保健・体育		
2	専	2	倫理学	心理学	音楽	カウンセリング			
3	専	2	ネイル	エステティック学	ボランティア				
4	専	2	社会学	社会学	法学	英辨	心理学	実務英語	文章表現
5	短	2	サービスマナー	情報処理	点字	手話	音楽	社会調査	社会学
6	短	2	人間の尊厳と自立	人間関係	生活と福祉	社会保険制度	社会調査	社会学	その他
7	専	2	基礎教養	レクリエーション	音楽療法				
8	専	2	哲学	論理学	福祉心理学	情報処理	法学	自然科学	その他
9	専	2	倫理学	生物学	家族社会学	心理学	保健体育		
10	専	2	情報科学	表現技法	家庭生活	就職実務			
11	短	2	英語	キャリアプランニング	健康とスポーツ	ライフマネジメント	数学	地域学	その他
12	専	2	パソコン演習						
13	専	2	学習基礎						
14	短	2	倫理学	音楽療法	イングリッシュ	中国語	英語文化論	スポーツ実技	その他
15	短	2	国語表現	体育					
16	専	2	人間関係論	家族社会学	国語・統計情報処理				
17	専	2	セルフマナー	手話入門	点字入門	卒業演習	介護保険事務士	障害者スポーツ	
18	専	2	心理学	社会福祉学	法学	保健体育	情報科学	国語表現	接遇
19	専	2	社会学	倫理学	心理学	数学	国語		
20	短	2	宗教	キリスト教	哲学	英語	共生論	比較文化論	その他
22	専	2	レク活動援助法	特別講義	ゼミナール				
23	専	2	レクリエーション実技	国語	社会学	生物	音楽	パソコン	
24	専	2	手話	家教学	生活学	介護福祉総合演習			
25	専	2	人間の尊厳と自立	コミュニケーション	人と法	生活と福祉	家族関係論	進記文化論	リスクマネジメント
26	専	2	福祉性環境概論	介護情報処理	介護特別講座	点字・手話・朗読	社会人マナー	パソコン演習	漢字と文章の基本
27	短	2	生活科学概論Ⅰ	ビジネス論	プレゼンテーション	ビジネス実務			
28	短	1	総合介護特論						
29	専	1	人間と哲学						
30	専	1	医学一般						
31	専	1	福祉レクリエーション	音楽療法	修了研究				
32	大	4	哲学	心理学概論	医学概論	文章表現	倫理学	日本史	世界史
33	大	4	教育論	ワークショップ	ゼミナール	生理学系科目	心理学系科目	その他	
34	大	4	哲学	論理学	心理学	音楽	英語文化論	その他	
35	大	4	人間共生論	生命科学	海外異文化	英語	人間の歴史	文章構成	その他
36	大	4	情報メディア	基礎ゼミ	英語	福祉文化	社会学	心理学	その他
37	大	4	外国語科目	健康科学	情報科学	健康スポーツ	社会学	科学的思考	その他
38	大	4	世界の宗教	法学	科学と技術系	歴史と社会系	文化系	その他	
39	大	4	多文化理解	英語	科学	人権・ジェンダー	統計学	外国語系	その他
40	大	4	哲学入門	英語	基礎ゼミ	メディア論	スポーツ	情報処理	その他

(筆者作成、中澤・2010年)

表10において、「その他」と表示しているのは、掲載されている科目以外にも多数の選択科目が開講されていることを示している。ここからもわかるように、D地方において哲学、または宗教に関する科目が設けられている養成施設は40校中7校に留まっている。また、選択科目数が多い4年制大学では哲学などを行って

る場合も多いが、宗教に関する科目を開講しているのは学校自体が宗教系の場合のみである。さらに、専門学校では選択の幅が少なく、宗教に関する科目は開講されていない。

介護福祉士養成課程は、「人間と社会」「ころとからだのしくみ」「介護」の3領域において具体的な教育内容が示されている⁽³¹⁾。そのため、スピリチュアリティに関する教育は「人間の理解」領域における「人間の尊厳と自立」で行うことも可能である。しかし、実際の教育内容は、前述のように各介護福祉士養成施設の裁量に委ねている。換言すれば、「尊厳」の意味やスピリチュアルな視点には触れていない場合が多いのである。したがって、宗教教育が受け入れられにくい我が国では今後のスピリチュアリティ教育（宗教・哲学に関連する科目）をどのように提供していくかが問われることになる⁽³²⁾。

おわりに

以上、新カリキュラムに関してスピリチュアリティを考え問う科目の必要性を検討した結果、教育内容の課題が明らかになったといえよう。

それは、第1に、全人的ケアを行うには、個別ケア、個人の尊厳、権利擁護の本質を理解する価値観が必要であり、そのためには宗教・哲学ニーズに関する科目を学習することが必要であること。第2に、A大学生の特徴は、状況判断能力や遂行する意思の強さ、スピリチュアリティなものに対する感性や気づきが鋭い。また、バランスの取れた考え方、現実を認識し客観的、合理的、論理的思考が身につけているが、この背景には、特定の宗教の信仰と宗教・哲学に関する科目の履修に関連があること。第3に、D地方でスピリチュアルニーズを理解するための科目を開講している養成施設は40校中7校に留まり、専門学校では開講されていない。また、4年制大学でも宗教に関する科目があるのは、大学自体が宗教系の場合のみである。

このような課題から、全人的ケアを行える人材を育成するには、今後の介護福祉士養成教育において、スピリチュアリティを考え問う科目の開講・必要性を検討することが重要課題といえる。

なお、本研究ではカリキュラム内容の課題について検討したが、宗教教育が受け

(31) 前掲書5)を参照のこと。

(32) 山田真知子「フィンランドの小学校教育におけるスピリチュアル・エデュケーションの理論・実証的考察」『人間福祉研究・第10号』浅井学園大学短期大学部, 2007年, pp.1-3

入れられにくい我が国では、今後のスピリチュアリティ教育をどのように提供していくかが問われてくる。この課題を、今後どのようにカリキュラムに反映するかはさらなる検討が必要である。これについては筆者の今後の課題としたい。